

庄川の自然美描く

中学生252人が写生会



庄川の自然を丁寧に描く中学生

砺波 砺波地区中学生写

生会は17日、砺波市の庄川水記念公園一帯で行われ、砺波、南砺、小矢部3市の美術部の生徒ら252人がみずみずしい感性で庄川地域の自然美をスケッチした。

これまで松村外次郎記念庄川美術館と砺波地区中学校文化連盟が主催してきたが、同館が2023年度末で閉館するのに伴い、砺波市美術館が引き継いだ。

生徒は、美術家、中川佳代子さん(小矢部市)の指導を受けながら、新緑の山々やエメラルドグリーンのダム湖、園内に咲く花などを丁寧に描いた。

写生会は、部員同士の交流を深め、自然や公園への愛着を持ってもらおうと毎

年開いている。入選入賞の100点は、8月11日と27日に砺波市美術館で開かれる「第30回中学生清流展」で展示される。写生会は北日本新聞社共催。